

与那覇湾

(よなはわん)

位置：北緯24度45分、東経125度16分／標高：0m／面積：704ha／湿地のタイプ：浅海域、潮下帯域、干潟／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地：沖縄県宮古島市／登録：2012年7月／国際登録基準：1、2、6

湿地のタイプ：浅海域、潮下帯域、干潟



広大な干潟 (写真：仲地邦博)

湿地の概要：

宮古島は、沖縄本島から南西へ約287km離れた場所に位置し、周囲約131km、面積約1万5900ヘクタールの、高温多湿な亜熱帯海洋性気候の島である。その宮古島の南西部に位置する島内最大の干潟が与那覇湾で、満潮時は最大水深200cm、最高潮位205cmにもなる。沿岸域にはメヒルギなどのマングローブ林、陸域はアダン群落、オオハマボウ群落などが占め、また、湾口付近には絶滅が危惧されているリュウキュウスガモ、ベニアマモ、ボウバアマモを主とする広大な海藻藻場(アマモ場)が分布するなど、多様な自然環境を有している。

渡り鳥の重要な中継地：

底生生物、稚魚、甲殻類などが豊富なこの干潟は、シギ・チドリ類、サギ類などの渡りをする水鳥等にとって欠かせない採餌場や休息場である。毎年200～300羽程度のメダイチドリの飛来が確認されており、絶滅が危惧されているクロツラヘラサギ、ツクシガモ、セイタカシギ、アカアシシギ、ハシブトアジサシなどの希少な鳥類の飛来も確認されている。繁殖地としても重要で、湾口の岩礁ではクロサギやエリグロアジサシが繁殖し、また、海岸林ではキンバトの繁殖が

確認されている。その他にも、宮古諸島は希少なタカ科のサシバにとって最大の渡りの中継地であり、与那覇湾にも多くのサシバが飛来する。

固有種ヘビ類も生息：

宮古島には固有種もあり、与那覇湾周辺にもミヤコカナヘビやミヤコヒメヘビ、ミヤコヒバアといったヘビ類が生息している。また、湾口周辺には国際的に希少なウミガメであるタイマイ、アカウミガメ、アオウミガメを見ることができ、与那覇湾は多くの生物種を育む生物多様性豊かな干潟である。

そうした与那覇湾は、豊かな漁場でもあり、魚介類や海藻の漁がおこなわれている。特に海ブドウの養殖が盛んで、天然のものも採ることができる。また、ヤシガニは「マクガン」という地域名で昔から食用や装飾品として利用されてきたが、生息数が減少している。

2012年1月より「宮古島市ヤシガニ保護条例」が施行され、乱獲に歯止めがかかる一方、赤土などの流入による水質汚濁など、生息環境の改善が課題となっている。

与那覇湾と伝統行事：

宮古島では旧暦3月3日を「サニツ」といい、女性たちが浜に出て、季節を祝い、

ハシブトアジサシ (写真：仲地邦博)



身体を潮で清め、潮干狩りを楽しむ伝統行事「浜下り(はまうり)」がおこなわれる。与那覇湾の西側に位置する「サニツ浜」ではこの他、宮古馬による伝統的な浜競馬や、宮古角力と呼ばれる相撲が毎年行われ、与那覇湾は地域の文化と伝統を継承する場でもある。また、湾岸沿いには多くの御嶽(うたき)と神社もあり、古くから信仰や祭祀の場として親しまれている。

●関係自治体

宮古島市役所 Tel: 0980-72-3751

